

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和7年度全国学力・学習状況調査（全国学テ）が本校でも実施されました。対象は中学3年生で、国語・数学・理科の学力調査に加え、生活習慣や学習意欲に関する質問紙調査も実施されました。本校では、国語・数学を紙の筆記形式、理科と質問紙調査をタブレット形式で実施しました。

全国学テの目的は、単に知識の定着を確認するだけでなく、思考力・表現力・問題解決力の育成状況を把握することにもあります。結果は授業改善や学習指導の充実に活かすとともに、学校と家庭が協力しながら、生徒の学習習慣を支える手がかかりとして活用していきます。

1 国語：読む・話す力は安定、書く力と語彙の定着が課題

国語の結果を見ると、「読むこと」「話すこと」は全国とほぼ同程度で、文章の意図を読み取る問題や、話の順序を判断する問題では安定した力が見られました（いずれも全国とほぼ同程度）。

一方で、「書くこと」はさらに伸ばしていける部分があります。図表の意図を踏まえて文章を書く問題では全国平均を下回っており、資料をもとに文章を構成する力をさらに高める必要があります。また、語の意味を問う問題では全国とほぼ同程度であるもののやや下回る傾向が見られ、語彙の定着が今後の課題となります。さらに、漢字の誤りを見つけて修正する問題でも全国とほぼ同程度であるがやや下回っており、基礎的な漢字の理解を深めることで学習の幅を広げることができます。

学年を問わずできる工夫

- ・ 新出の言葉や漢字を日記やメモで使う。
- ・ 読んだ本やニュースの内容を短くまとめる。

学校での取り組み

- ・ 資料の意図をとらえた文章作成。
- ・ 基礎漢字の定着。
- ・ 文章構成を意識した表現指導。

2 数学：基礎は安定、文章・図表問題で思考力を育成

基礎的な計算力は安定していますが、文章問題や図表・資料を活用する問題では、さらに理解を深める必要がある様子が見られます。

計算や基礎的な問題

1 次関数の増加量を求める問題では、計算そのものよりも「増加量」という考え方の理解に課題が見られます。基礎的な内容でも出題のされ方によって戸惑いが生じるため、概念の理解をより確かにする取り組みが必要です。また、ハンドボールの度数分布から相対度数を求める問題では、データの読み取りや表の意味の理解をさらに深めることが求められます。

図や条件をもとに考える問題

連続する 3 の倍数の和が 9 の倍数になるかを説明する問題では全国とほぼ同程度の理解が見られます。一方で、2 つの 3 の倍数の和に関する問題では全国平均より理解がやや弱く、規則性の理解や式の活用をさらに伸ばすことが望まれます。

確率・場合の数

じゃんけんカードゲームの 1 回目に A が勝つ確率を求める問題では全国とほぼ同程度で、基本的な確率計算は安定しています。しかし、複数の条件下での勝ちやすさを説明する問題では全国平均を下回る傾向が見られ、理由を整理し筋道立てて説明する力を高めることが求められます。

図形の問題

平行四辺形や交点に関する証明問題では、単純な平行四辺形の性質を問う問題では全国とほぼ同程度ですが、複雑な交点を扱う問題では全国平均を下回り、論理的思考力をさらに伸ばす必要があります。

学年を問わずできる工夫

- ・ 図や表を見て自分なりに式や文章で説明してみる。
- ・ 生活の中で数や割合、規則性を探してみる（ゲームや買い物など）。

学校での取り組み

- ・ 文章や図表を読み取り、式に表す学習。
- ・ 規則性や関係を論理的に説明する力の育成。
- ・ 条件を整理して段階的に考える力の育成。

3 理科：知識は安定、思考・判断力や複合的理解に課題

今回の理科の調査は、タブレットを使用したオンライン形式で実施されました。結果を見ると、身近な事象や安全に関する基礎的な知識は安定しており、一酸化炭素の避難行動ややけどの応急処置など、生活に関わる内容は全国平均と同程度かそれ以上の理解ができています。また、抵抗の役割など、基本的な知識をもとに判断する課題も全国平均と同程度でした。

一方で、複数の情報を組み合わせて考えたり、理由を説明したりする問題では全国平均を下回る傾向が見られます。

- ・ 地層や化学変化の条件をもとに現象の結果を推測したり、原因と結果を考えたりする問題では、情報を整理して結論に結びつける力をさらに高める必要があります。今後は、仮説を立てて考察する学習を充実させます。
- ・ 実験結果をもとに文章で理由を説明する問題では、結果の整理や根拠に基づく表現力をさらに伸ばすことが課題です。
- ・ 日常生活の現象に科学的な説明を結び付ける問題では、理論と日常現象の

つながりを意識した学習の積み重ねが必要です。

学年を問わずできる工夫

- ・ 実験や観察の結果を、簡単な図や文章でまとめる習慣を身につける。
- ・ 日常の気づきを、理科の視点で「なぜだろう？」と考えてみる。

学校での取り組み

- ・ 観察や実験の結果を基に、筋道を立てて考える学習の充実。
- ・ 複数の知識を関連付け、理由を明確にして説明する力の育成。
- ・ 日常の現象と学習内容を結び付ける授業展開の工夫。

4 生徒質問紙から見える本校の姿

4月に行われた全国学力・学習状況調査では、学力だけでなく、生活の習慣や心の成長についても聞かれました。ここでは、本校の生徒の回答から見えてきた様子をご紹介します。

(1) 心の成長：思いやりと協力の姿は大きな強み

本校では、人を大切にし、仲間と協力して学ぶ姿勢が育っています。

- ・ 困っている人を助けたい … 約 88%
- ・ いじめはどんな理由でも許されない … 約 98%
- ・ 人の役に立ちたいと考えている … 約 97%
- ・ 互いの考えを尊重しながら協力して課題に取り組む … 約 95%

これらの結果から、人間関係の力が非常に高く、安心して学べる環境が整っていることが分かります。一方で、「自分には良いところがある」と答えた生徒は約 88% とほとんどの生徒が自分の良さに気づいているが、さらに多くの生徒が自分の良さに気づけるよう、温かく見守る取り組みを続けていきます。

学校では、日々の声かけや学級活動を通して、生徒が自分の良さに気づき、安心して学校生活に向かえる場面を増やしていきます。

日常での工夫

- ・ 友達に感謝や褒め言葉を伝える。
- ・ 自分の頑張りを日記やノートに書く。
- ・ 小さな成功体験を振り返る。

こうした習慣は、学習意欲や自己肯定感の向上にもつながります。

(2) 生活習慣：起床は整っているが、就寝は遅れがち

生活習慣については、

- ・ 毎日朝食を食べている … 約 92%
- ・ 毎朝ほぼ同じ時刻に起きている … 約 93%

と、朝の生活リズムはとても安定しています。

一方で、就寝時刻が少し遅くなる傾向があり、十分な休息が取れにくいことから、翌日の集中力や家庭学習への影響に注意していきたいところです。

起床のリズムが整っていますが、就寝時刻が遅くなる傾向があり、疲れが十分に

取れず翌日の集中力や家庭学習に影響することが懸念されます。

家庭でできる工夫

- ・ 就寝・起床時刻を毎日ほぼ一定にする。
- ・ 夜はスマホやゲームを控え、リラックスできる時間を作る。
- ・ 朝食は毎日欠かさず、朝の学習や読書につなげる。

(3) 家庭学習：今回の調査で特に注目したい点

今回の調査では、家庭学習に充てる時間が確保しにくい生徒が一定数いることが分かりました。

- ・ 平日に2時間以上学習している生徒は約30%と、3人に1人に満たない。
- ・ 反対に、「ほとんど勉強しない」「30分未満」と答えた生徒が相当数いる。
- ・ 新聞を読む習慣がある生徒 … 約9%と非常に少ない。

このように、学校では協力しながら学ぶ姿が育っている一方で、家庭学習の時間を確保しづらい状況にある生徒もいることが分かりました。これは「基礎学力の定着」「教科書内容の理解の深まり」に直接影響するため、今後、学校として特に力を入れて取り組んでいきたい点です。

学校としても、「家庭学習のきっかけづくり」「達成の積み重ねが実感できる仕組み」など、工夫を重ねながら取り組んでいきます。

生徒向けのポイント

- ・ 少しの時間でも毎日机に向かう習慣を身につける。
- ・ 興味のあることから学ぶ（図鑑、ニュース、動画など）。
- ・ 分からないことはメモして授業で質問する。

5 まとめと保護者の皆様へのお願い

本校の生徒は、協力しながら学ぶ姿勢や朝の生活リズムなど、多くの良さをもっています。一方で、就寝時刻が遅く睡眠が不足していること、家庭学習の時間が確保しにくいこと、自分の良さに気づきにくい生徒がいることは、今後の課題です。

学校での取り組み

- ・ 授業内容や生活指導の工夫。
- ・ 思考力・表現力・学習習慣の育成。

保護者の皆様へのお願い（無理のない範囲で）

- ・ 就寝時刻の調整など、生活リズムづくりの見守り。
- ・ 家庭学習へ向かうきっかけとなる声かけ。
- ・ 読書やニュースに触れる機会を、できる範囲で確保する工夫。

これらの取り組みは、生徒の学力向上だけでなく、心身の健康や自己肯定感の育成にもつながります。

今後も学校とご家庭が協力し、生徒一人一人の成長を温かく見守りながら、安心して学べる環境づくりに取り組んでまいります。ご家庭におかれましても、日々の声かけや見守りなど、できる範囲でのご協力をお願いいたします。